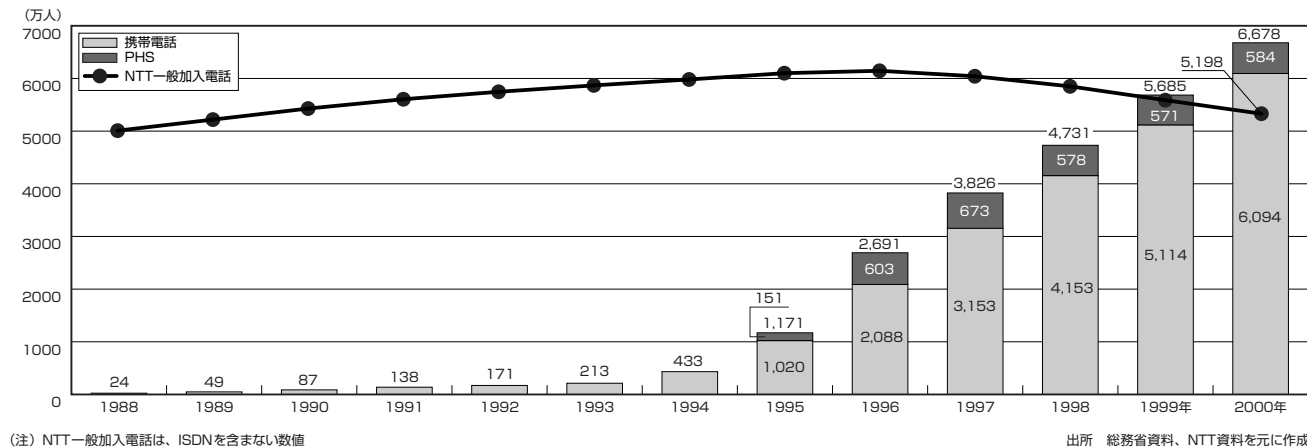


第1章 通信ネットワーク

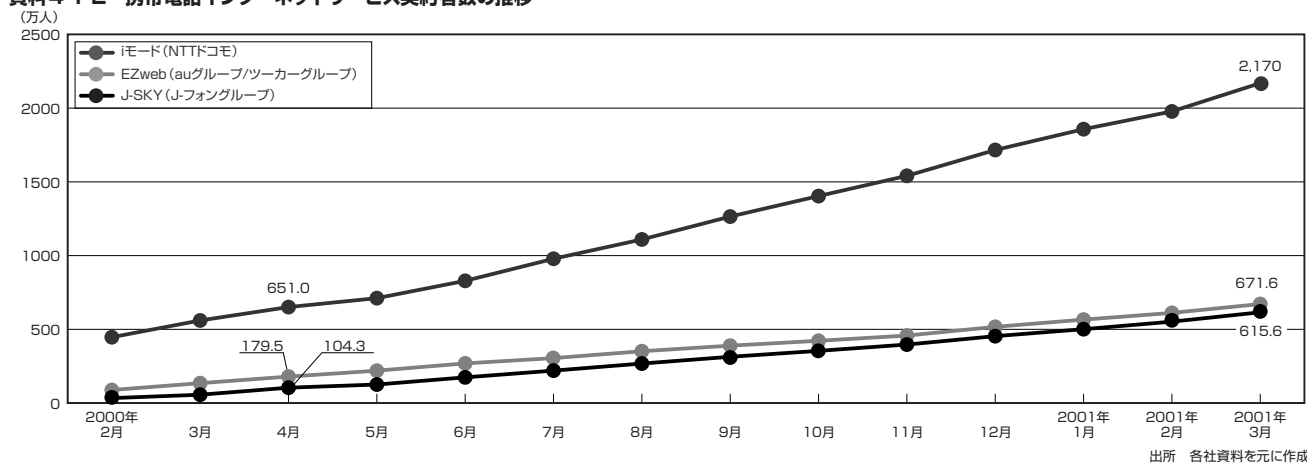
移動体通信①

ライフラインとしての位置付けが明確に

資料4-1-1 移動電気通信事業加入数の推移



資料4-1-2 携帯電話インターネットサービス契約者数の推移



解説

携帯電話・PHSに代表される国内移動体通信市場は、2000年から始まったドコモのiモードをはじめとするマイクロブラウザ内蔵型の携帯電話機が牽引車となって、従来の電話指向のモバイルからインターネット指向のモバイル市場へと驚異的な増加を続けている。さらに、2001年1月からはJava対応の“iアプリ”などの新サービスも加わり、各種アプリケーションやコンテンツのダウンロードが可能になり、スマートフォンへと進化を続けている。このような環境下で、固定系通信サービスが低迷の一途をたどるなか、移

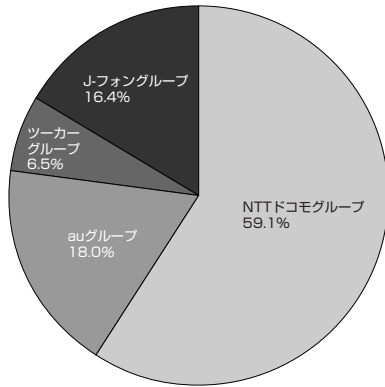
動体通信市場は好調な伸びを示している（資料4-1-1参照）。また、携帯電話機のデザイン面でも、従来は若者向けが中心であったが、幅広い年齢層を意識し、操作や機能を簡易化した機種も多数販売され、新しいライフラインとしての位置付けを明確にしてきている。

ブラウザ内蔵型携帯電話機が一般的になり、NTTドコモ、KDDI/au、J-フォンがそれぞれ独自のモバイルインターネットサービスを充実させ、コンテンツもより豊富になった。そのため、携帯電話インターネットサービス契約者も大幅な伸

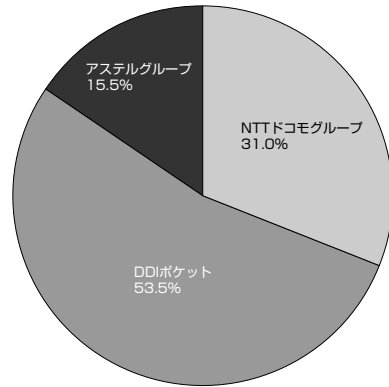
びを示し、My First Internetをモバイル環境で経験するユーザーも増え続けている（資料4-1-2参照）。これまでは電子メールや簡易なウェブアクセスでのモバイル利用が主であったが、Java対応ブラウザが搭載された機種誕生で、オンデマンドに必要なアプリケーションを容易にダウンロードして利用する形態が加わった。今後、ビジネス向けのアプリケーションの充実が期待される。

一方、一時的に低迷したPHS市場も、帯域保証型の64kbps伝送がビジネスモバイルの根強い支持を受け、NTTドコモ

資料4-1-3 携帯電話キャリア別市場シェア

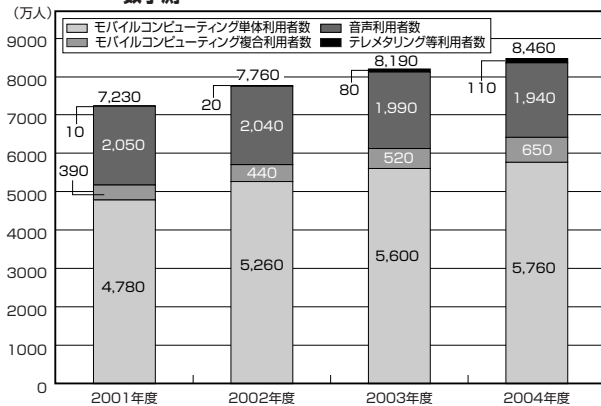


資料4-1-4 PHSキャリア別シェア

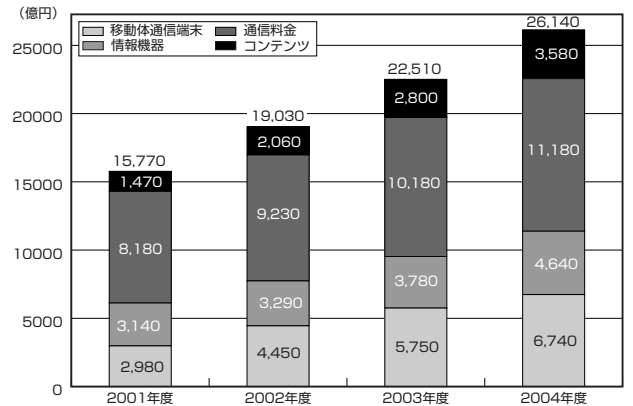


出所 社団法人電気通信事業者協会の資料を元に作成
www.tca.or.jp

資料4-1-5 移動体通信市場におけるモバイルコンピューティング利用者数予測



資料4-1-6 モバイルコンピューティング市場規模の推移予測



出所 モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
www.pep.ne.jp/mcpcph/

解説

のP-in Mobile Cardに代表されるようにノートパソコンやPDAとの組み合わせで幅広く利用されている。

携帯電話市場をキャリア別にみると、加入数・売り上げ・利益でNTTドコモが三冠王の座を堅持している（資料4-1-3参照）。言うまでもなく好調の源泉はiモードであるが、次世代移動通信のW-CDMA方式を採用したFOMAサービスの積極的な導入姿勢なども、加入者の好感度を高く維持している理由の1つと言えよう。さらに、利用者還元型の料金や、新サービス、新型端末などのタイムリーな投入など

も他社に真似できない戦略だ。一方、国内三位の座にあるJ-フォンは、世界最大の移動体通信事業者であるVodafoneの経営参加により同社の3G（第3世代）を目指した世界戦略に組み込まれ、飛躍的な成長が期待される。今後、世界市場進出を目論むドコモと、日本市場参入を果たして世界王者の座を維持しようとするVodafoneの戦略に注目したい。

PHSは携帯電話市場ほどの右肩上がり成長こそないが、64kbpsの安定したモバイルコンピューティングを提供するサービスとして堅実な展開をしている（資料4-

1-4参照）。PHS事業者各社とも脱電話サービスを指向し、カード型のモバイルモデムによるサービスを充実させている。特に、ドコモはモバイルマルチメディアを先取りしたM-Stageという新たなコンセプトをPHSで実現し、動画コンテンツをどこからでも発信できるeggyや、音楽コンテンツ受信専用のPickwalkなどの端末を市場に投入した。これらは、近々開始されるFOMAサービスにより、さらに高速広域な伝送特性を活かしたモバイルコンテンツ配信として大いに発展が期待される。

（高川雄一郎 早稲田大学国際情報通信大学院）



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp